

# 平成24年度 外部評価書

学校名 和歌山市立 有功東小学校

作成日 平成25年3月30日

|             | 開かれた学校  | 豊かな心  | 確かな学力  | 生活科・総合的な学習等研究推進   |
|-------------|---|---|--|---|
| 本年度の重点見解目標に | ○創立20周年を迎え、「信頼される学校」を学校運営の基本方針に据えた姿勢は、保護者や地域住民にとって安心感を与え、大切なことである。<br>○地域の「有功元気祭り」や「子ども祭り」等は、地域の方々と触れ合えるよい機会である。              | ○学校にかかわるみんなの合言葉として「世界一素敵な学校を一緒につくっていこうね」を設定し、子ども達の意識の発揚に心がけている。<br>○今日の大きな教育課題である「いじめ」問題でも「いのちの日」を設定する等積極的に取り組んでいる。           | ○共に学びあい、問題解決していく力は、すべての教科の基本であり、より一層「確かな学力」の向上をめざしてほしい。<br>○家庭学習の充実は子どもの伸びにつながる。学年に応じた家庭学習プランの作成を望みたい。                           | ○マイカリキュラムによる特色ある学級経営により、子どもの居場所を大切にしていることがよく分かる。さらに校区の「人・もの・こと」に目を向け、取り組みを進めてほしい。             |
| 取組の具体的意見に   | ○11月には研究発表会を開催し、各地の教職員に対し、有功東小の実践を発信していくなど有功東らしさがうかがわれる。<br>○地域の回覧板に学校だより「六十谷の子」を定期発行し、学校・校長の考えを打ち出しているため学校が考えていることがよく分かる。    | ○多様な体験活動を通して「世界一素敵な学校を作ろうね」と呼びかけるなど子どもの心に訴えていく活動は評価したい。<br>○心をひらく出発点は「あいさつ」であろう。全校児童が笑顔であいさつをかわせるよう取り組んでほしい。                  | ○学力調査の結果から見ても「B活用」では10ポイント近く高いと聞いている。これは、日々の実践の成果であろう。<br>○各学級がマイカリキュラムを作成するなど担任の個性を生かした教育実践がなされている。                             | ○23・24年度の2年間にわたり、文部科学省の教育課程研究指定事業に選ばれるなど県内にとどまらず教育実践を展開していることは、子どもたちや教職員にとっても大変な自信や誇りとなるであろう。 |
| 取組の成果と課題に   | ○今年度も薬剤師さんや選挙管理委員会の方々を招き、出前授業が数多く実施された。<br>○きいねっと上の学校ホームページもちゃんと更新されており、学校の情報がよく分かる。<br>○長寿会の高齢者とも交流を続けており、核家族が進む中、意義深いものがある。 | ○ヤギ牧場においてのヤギ隊、玄関ホールの水族館の飼育、カウチャーム等生き物の世話を通して子どもたちが学んだことは大きいと思われる。<br>○低学年の国際理解教育や高齢者との交流を通して、「ちがいが」「相手の気持ちかわかる」ことの大切さを理解させたい。 | ○子どもたちが自分の意見を持ち、発言できることは素晴らしいことである。あと、他人の意見等をしっかりと聞くということを身につけさせていきたい。<br>○全教職員が研究授業を提供することはエネルギーがいることであるが教師力をアップさせるためにも続けていきたい。 | ○生活科や総合的な学習の時間は、子どもの実態を捉えることから始まる。<br>○児童アンケートには「生活科・総合」に関する問いを設けてはどうか。                       |
| 改善方法に向けての意見 | ○多くの「出前授業」が実施され、いろいろな分野の方々に教えていただく機会があった。さらに人材リストの作成等により、より多くの方々が関わられるよう望みたい。   | ○家庭環境は子どもの育成を大きく左右する要素である。保護者に対してもさらに啓蒙を深めていきたい。<br>○言葉づかいは家庭環境の影響が大きいと思われる。家庭を巻き込んだ指導の工夫を考えたい。                               | ○授業参観ではどの教室でも工夫された授業がなされていた。「授業研究で大事にしたいこと」の4点(的・会・根・芽)を全職員の意識の中に取り込む必要があるであろう。  | ○市の研究指定や文部科学省の指定で得た財産をもとにさらに研鑽を深め、子どもにかえして欲しい。  |

## その他学校運営の改善に関する意見

○平成5年の創立より早20年の節目を迎えた。さらに開かれた有功東小を創出していくためには、実践力のある教職員の育成だけでなく、全ての教職員のベクトルの方向性を一致させることが必要であろう。  
○学校評議員会の開催は、学年末だけでなく、少なくとも学期1回は必要だと思う。  
○県道拡幅工事関連で、六十谷駅周辺の交通事情が大きく変わりつつある。児童の交通安全教育も現状に即してさらに必要であろう。

